

YOUNG BLOOD

共につき進もう ～全国の仲間と明るい未来へ～

発行責任者：JR連合 青年・女性委員会 議長 李澤 亮汰 編集責任者：近藤 直樹

第36回中央委員会での青女代表質疑

2024年2月1日(月)、JRホテルクレメント高松にて「第36回中央委員会」が開催されました。青年・女性委員会を代表して三宅幹事（JR西労組）がJR連合執行部に対して質疑を行いました。

●質疑内容（要約）

◆女性参画について

青年・女性委員会は、これまでの間、男女や系統のバランスを考慮しながら役員を選出し育成してきた。連合本部でも女性参画について注力されており、徐々に女性組合員も増えてきている。

青女世代の組合員は、結婚や育児をきっかけに組合活動から離れていく人が一定数いることが課題である。全員参画が重要であり、その先頭に立つ役員も一定の循環が必要と考えている。しかし、役員の循環どころか女性組合員は、そもそもの根幹である働く環境の整備が採用人数に比例していないことも事実である。女性が十分な力を発揮できるような環境と設備の拡充を目指していきたいと考えているので、お力添えをお願いしたい。



◆青春18切符の廃止の希望について

近年では青春18切符ではなく、各会社でお得な切符も設定され、利用者数も減少していると聞いている。また、組合員からは青春18切符をご利用されるお客様の態度やマナーが非常に悪く、目に余るという声があることも事実である。今一度、組合員の声に耳を傾け、切符の今後の在り方を検討していただきたい。

◆青女活動について

青年女性委員会の最大の目的は仲間作りである。しかし、転職するのが当たり前のような時代となっており、一般組合員からは各種運動に理解を示してもらえず脱退や退職といった道を歩ませてしまったことも事実である。離職防止については、組合活動を楽しみたいと思えば、組合があるから働きたいと思える寄り添いができるのが、この組織の強みだと思っている。これからのJR産業を担うのが青女世代の組合員であり、青女世代が更なる求心力を磨き発揮すべくより一層のお力添えをお願いしたい。

昨年12月には、JR連合青年・女性役員研修会に参加し、電力総連青年委員会との意見交換を行った。同じインフレを支え、安全に重きを置く電力総連との意見交換では、互いにコロナ禍での苦労や困難を共有し、更なる魅力発信に向け地域ごとの交流も実施しているという話を行った。

5月には東海地協準備にて第28回ユースラリーを開催予定である。民主化闘争並びに、JR連合の旗への総結集を目指すべく、多くの課題認識をしながら、運営も参加者側も仲間を感じられる場となるようお願いしたい。

●当日の様子



傍聴も含めて多くの青女組合員が参画する中央委員会でした。発言だけで終わらず実行に移していけるよう、JR連合青年・女性委員会が一丸となって活動に取り組んでいきます！

**各種SNSを開設しています！
アクセスしてね♪**



※現 X